

明治文学概説

正宗白鳥

(一)

明治以前の日本の文学は、支那の思想や文学及び、印度の宗教の感化を受け、発達したものであつた。明治以後の文学は、歐洲の思想や文学によつて刺戟せられ、発達したことは、誰れでも知つてゐる通りである。所謂日本傳統の思想、趣味、好尚、文字の用法などは、明治以後の文学は保存せられ、継紹せられてゐるが、また外來の文学によつて、多少の感化せられたことは、興味ある問題である。

日本人は決して頑迷固陋ではなからぬ。新しいものをも求め、進む意氣は富んでゐる。幕末の頃、攘夷思想が強烈であつたが、他國の文化一般的めは、着目して、それを模倣せんと志した。有識者も、勢なくあつた。そこで、維新以後は、急轉直下の勢から、歐米を模倣し、開化と云ふことだした。文明(何れもか)の開化と云ふ

保存せられ